



特集  
土木遺産Ⅱ  
時を超える技術者のこころ イタリア

Special Features  
Engineering's Heritage II  
Engineer's Feeling Surpassing the Time Italy



塚本敏行  
TSUKAMOTO Toshiyuki  
東京エンジニアリング株式会社  
営業企画管理部/次長

## Appian Way アッピア街道

### ローマ帝国の高速道路

ローマから南東に一直線に伸びている道がある。ローマの最高位者ケンソル(財務官)であったアッピウス・クラウディウスが立案し、紀元前312年に建設が始まった最初のローマ街道、アッピア街道である。アッピウス自身が総監督として敷設したためこの名がついた。

その後「すべての道はローマに通ず」の言葉通り、ローマ街道網は375本の幹線だけでも8万5千km以上、支線を加えると優に15万kmはあったといわれている。現在でも元ローマ地域では、その痕跡を見ることができる。

アッピア街道は最初のローマ街道であるだけでなく、ローマ街道はどうあるべきかのモデルでもあった。その目的は、機能的な軍用道路の建設であった。当時のローマ人にとっての道は、自然発生的にできたものでよかった。塩を運ぶためにできた「塩の道」などがその例である。しかし、紀元前753年といわれている建国から400年経ち、ローマの支配地域が広がるにつれ軍隊の

迅速な移動が必要となってきた。

アッピア街道も最初はローマが制覇した南端のカブアまで建設された。その後、ローマが征服した都市、ベネヴェント、ヴェノーザ、ターラントまで延長し、終点のアドリア海に面する港町プリンディシまで開通するには70年かかっている。

#### 1—画期的な設計思想

ローマ街道にはそれまでの道と違った幾つの特徴がある。

第一に、軍隊の迅速な移動を目的にした軍用道路であることから、可能な限り直線として建設した。常に平らに均し、地盤の悪い湿地帯では無数の杭を打ち込み土手を築きその上に街道を建設した。また、川や谷では道と同じ高さに橋を架けた。

第二に、1~3m程度の歩道部を車道の両側に建設した。軍隊の移動時、一般の人々が混在した街道では迅



速な移動ができない。そのため歩車道分離が必要であった。

第三に、重要なローマ街道のほとんどを全線敷石舗装で建設した。驚くことにその舗装構成は現在の道路構成とほとんど変わらなく、全構成厚は1.0~1.5m程度である。最上層は、接合面がぴったり合うように切った1辺70cm程度の大石を隙間なく敷き詰めた。

第四に、街道を堅固に保つため、車道内に雨水が浸透しないよう道路中央部を高く弓形の排水勾配を設け、両脇に排水溝を設置した。さらに浸入した水が溜まるのを防ぐため、舗装構成の最下層は、砂利を敷き詰めた。

第五に、地下に伸びてくる根が、4層からなる街道の車道部分を侵食するのを防ぐため、敷石舗装のすぐ外側に樹木を植えることを厳禁した。

この特徴を見ると、まさに古代の高速道路といえる。

#### 2—アッピア街道の始点

アッピア街道の始点は、現在のローマの旧市街をめぐっているアウレリアヌス城壁の18の門のひとつであるサン・セバスティアノ門(旧称アッピア門)である。

アッピア街道が建設され始めた紀元前312年時点の始点は、当時のローマ市街の境界であったカラカラ浴場の南東角、ヌーマ・ポンピリオ広場付近であった。約600年後の紀元3世紀になってアウレリアヌス城壁が築かれ、市街との境界になったため、アッピア街道の始点もサン・セバスティアノ門に移動した。

#### 3—マイルストーン(里程標)

アッピア街道をサン・セバスティアノ門から100m程



行った右側に最初のマイルストーンがある。

紀元前120年頃、最初の道路関連法である「センプローニウス法」が制定され、すべてのローマ街道には1ローママイル毎に石柱を立てることになる。1ローママイルとは、「人の一千歩(左右合わせて一歩)」に等しい距離とされ約1.5kmである。

従って、最初のマイルストーンの位置は、マイルストーンの起点であるローマの政治・経済の中心地フォロ・ロマーノから1ローママイルであること

が分かる。

フォロ・ロマーノのセプティミウス・セヴェルス帝の凱旋門脇に、ローマ街道のマイルストーンの元標がある。現在では基部しか残っていないが、当時上方は円錐形をしていた。もちろん、現在もローマを起点とする街道の元標として現役である。東京日本橋にある日本の街道の元標と同じである。

#### 4—古の街道

サン・セバスティアノ門から4km程度(起点から約5~6km)行くと、古のアッピア街道に出会うことができる。

ぴったり合っていた約2300年前の敷石舗装は、割れて丸みを帯び凹凸が激しい。しかし、この堅い敷石に長年の使用で刻まれた馬車の轍跡を見ることができる。

何人もの歴史上の人物が通ったに違いないアッピア街道。しばし想いを馳せてみてはどうだろう。

〈参考文献〉

- 1) 「すべての道はローマに通ず ローマ人の物語X」塩野七生 2001 新潮社
- 2) 「道 古代エジプトから現代まで」鈴木敏 1998 技報堂
- 3) 「道のはなし1」武部健一 1992 技報堂
- 4) 「Piante di citta Roma」Studio F.M.B.Bologna

- 写真1[前頁]—歴史上の人物達が通った古のアッピア街道
- 写真2[左上]—アッピア街道の始点であるサン・セバスティアノ門
- 写真3[右上]—アッピア街道一番目のマイルストーン(里程標)
- 写真4[左下]—ローマの政治・経済の中心であったフォロ・ロマーノ
- 写真5[中下]—ローマ街道の元標(フォロ・ロマーノのセプティミウス・セヴェルス帝の凱旋門脇)
- 写真6[右下]—2300年の使用に耐えるアッピア街道の敷石舗装

(写真: 1、米岡威 4、生形勝利 6、富永美幸 他、筆者)

